

下呂市 全域

令和6年度

## 【地域の概要】

- 下呂市は岐阜県のほぼ中央に位置し、市の中央を飛騨川が南北に貫き、西には清流馬瀬川が流れ、総面積の約90%が森林という自然豊かな山村地域。日本三名泉のひとつとされる下呂温泉には年間100万人の宿泊者がある。
- 主な農産物は、昼夜の寒暖差を活かした夏秋トマト、飛騨牛ブランドで知られる肉用牛、人気水稻品種「いのちの壺」による各種ブランド米をはじめとする水稻栽培のほか菌床類など。
- 耕地面積は1120ha。

## ①取組開始前の状況や課題

- 委員それぞれの担当地区の状況によって活動量に差があると感じていた。
- 日々の最適化活動だけでなく、地域の課題を自ら見つけ、解決に向かっていき、より一層地域に根差した農業委員であってほしいという願い。
- 他地区の農業委員との連携や事務局の全面バックアップにより、担当地区を超えた発展も視野に入ることから、いっそうの地域貢献が期待できる。
- 任期満了までの1年半で、自分の興味のあることも絡めるなどして、とにかく楽しく活動してほしい。



令和7年9月の任期満了までに

**「1委員1事例活動」**として  
一人1つ以上の課題解決に取り組む

## ②取組内容

先行して実施した3事例を紹介。

## ○夏休み子ども食堂への食材提供（令和6年7～8月）

- 下呂市社会福祉協議会が主催する夏休み子ども食堂が物価高騰で運営が厳しいことから、小坂地区の山下委員の呼びかけで食材提供することに決まった。
- 委員自ら米60kg以上の提供のほか、地域住民や認定農業者への働きかけで食材が集まった。
- 市内各所で行われた子ども食堂の5地区には各地区の委員(計6名)が参加し、農業クイズを行った。

## ○田んぼどろんこSUP（令和6年8月）

- 金山地区6委員合同で行った。委員の耕作する田を1枚休耕にし、どろんこ遊びやSUP、梅干しづくり体験などを行った。
- 地元で楽しい思い出をたくさん作り、地域への愛着を深めていくことが将来にわたって地域を守ることへとつながる。

## ○牛農家体験（令和6年9月～）

- 下呂地区の和牛繁殖農家の福井委員は、もともと畜産が盛んだったこの地区のことをもっと知ってほしいとの思いから、小学校と連携して3回にわたり自身が経営する牛舎に子供たちを招待し、牛農家体験を行った。

## ③今後の展開と方向性

- 来年9月の任期満了に向けて年度末に全ての取組の中間報告会を行う予定。
- 既に今年度実施した3事例についても、来年度に向けて課題点などを整理中。



牛農家体験



【岐阜】下呂市農業委員会（金森茂俊会長）では、各委員が任期中に取り組みを一つ行う「1委員1事例活動」に取り組んでいる。その一環としてこのほど、同市社会福祉協議会（市社協）が小学生を対象に開いた「夏休み子ども食堂」に農業委員が食材を提供し、農業クイズを実施した。

## 岐阜・下呂市 農業委員会

きっかけは食育サポーターも兼ねる山下康子農業委員が、子ども食堂に協力できないかと事務局に相談したこと。事務局は市社協と調整し、委員に食材の提供を呼びかけた。食材は、山下委員が食育サポーターと連携し、委員や市民と調整して集めた。

# 食材とクイズで食農教育 盛り上がる夏休み子ども食堂



農業クイズを行う山下委員（左）

委員が参加。会場では、子どもたちに市の農業に興味を持ってもらおうと委員が農業クイズを実施した。農家数や食料自給率、同市特産の米「いのちの壺」やトマトなどの問題を出題。子どもたちは「農家さんがこんなにいるのを知らなかった」「家で作って

また、各委員も食材提供だけでなく担当地区の農家へ提供を呼びかけた。委員からは米やトマトなどが提供され、夏野菜カレールーとサラダに使った。

7月26日の小坂地区をはじめとする全5会場に計6人の農業委員会の参加によって食農教育が充実し、委員からも「子どもたちに地域農業に愛着を持ってもらう良い機会になった」と声があがり、来年も継続していく予定だ。

また、各委員も食材提供だけでなく担当地区の農家へ提供を呼びかけた。委員からは米やトマトなどが提供され、夏野菜カレールーとサラダに使った。